

医療情報システム「Mefis」が、外来システムとの連携により 救急医療体制の課題解決を目指します

グリーン・コミュニティの創造を目指す日本アジアグループ株式会社(コード:3751、本社:東京都千代田区、代表取締役会長兼社長:山下 哲生、以下「日本アジアグループ」)傘下の国際航業株式会社(代表取締役社長:土方 聡、以下「国際航業」)は、TXP Medical株式会社(代表取締役:園生 智弘、以下「TXP Medical」)と協働して、病院内外のデータ連携プロジェクトを開始します。

■ 実証プロジェクトの目的と未来

この度、国際航業が提供する救急医療情報システム「Mefis(メイフィス)」とTXP Medicalが提供する救急外来情報システム「NEXT Stage ER」を組み合わせ、病院内外のデータ連携プロジェクトを開始します。これまで行政主体で活用する「Mefis」のシステム(行政の管理下にある)と受入先救急指定病院の院内システム(電子カルテが病院の管轄下にある)の情報連携は困難とされていました。

しかし、本プロジェクトにより連携が可能となることで、救急隊と病院双方の入力負担軽減と、信頼性の高い「救急患者予後データ」の収集が実現します。さらに、救急搬送された患者が「現場で、どのような判断のもと、どの医療機関に搬送され、どのような結果になったのか」という事後検証も容易になります。今後、システムの実証実験を進め、各都道府県へ導入を展開してまいります。

・「Mefis(メイフィス)」(https://www.kkc.co.jp/service/admin_support/regional_med_sprt_mefis2.html/)
国際航業が提供する、医師と救急隊による搬送先決定を支援する救急医療情報システム。効率的な医療機関検索により搬送時間短縮を実現するとして、現在11箇所の都道府県にて稼働中。

・「NEXT Stage ER」(<https://txpmedical.jp/service/>)
救急外来に特化したTXP Medicalのデータ管理システム。音声入力技術を活用した患者情報記録等を可能にする。全国11箇所の救命救急センター・救急指定病院向けに提供。

■ 実証プロジェクトの特徴

①情報入力・データ転記作業の削減

TXP Medicalが有する音声コマンド入力等により、救急医療情報システム「Mefis」への患者情報の入力負担を軽減します。また、患者情報をQRコード等の媒体に出力し、迅速に「Mefis」の搬送先検索機能で選択した病院の救急外来システム「NEXT Stage ER」に事前情報として取り込むことで、電子カルテへの転記作業を削減します。

②予後調査の効率化および活用

「NEXT Stage ER」で収集された各患者の病院内の最終診断名、予後データ等は構造化・類型化されて、「Mefis」に電子出力されます。これにより、紙媒体での返送に依存していた予後調査が効率化され、信頼性の高い予後データの集計が可能になります。さらに、「Mefis」により、予後データや住民傾向等を地域特性と組み合わせ、ヘルスケアに関する分析を行うことで、地域の課題解決にも貢献します。

日本アジアグループは、「安心して安全、そして持続可能なまちづくりで社会に貢献」をミッションに掲げ、SDGs を追求する会社であり続けます。

【お問い合わせ先】

日本アジアグループ株式会社 コーポレート・コミュニケーション部 国際航業広報担当
TEL: 03-4476-8007 e-mail: press@japanasiagroup.jp URL: <https://www.kkc.co.jp/>